

## 学生支援活動の特集について

国大化学会副会長 鈴木恵一朗（昭和45年電化卒）

国大化学会では発足以来、会の活動の柱として学生支援に力を入れています。当会の学生支援は、化学系3同窓会統合以前の平成13年度に、横浜応化会の起案で「OBと語る会」が3同窓会の支援により始まったのがスタートと言えます。その後、国大化学会として2年目の平成20年度より、国大化学会教育研究支援基金の運営が始まり、当初の「学会参加登録料の支援」から次第に幅を広げてきました。

昨年度の学生支援活動をみますと、化学系教員の執行役員からなる教育研究支援基金Gが担当する教育研究支援基金による学生への金銭的援助、従来からの「OBと語る会」とどまらず、企画Gによる「就職支援」、会誌・名簿Gによる「OBを訪ねての企業見学・懇談」等、会の各グループの活動としても根付き、それぞれ枝を広げつつあります。

なぜ今、私たちの同窓会が学生支援なのでしょう。疑問を持つ方もいらっしゃると思います。私たちは同窓会を同窓生の懇親・交流の場としてのみ捉えるのではなく、従来以上に大学の発展に寄与する場ともしたいと考え、大学だけではなかなかできない同窓会ならではの木目細かい学生支援を行いつつあります。これにより学生の勉学・研究・就職準備の環境を少しでも良くし、学生の意欲を高め、社会に送り出すことができれば、それが卒業生の活躍につながり、大学のバリューアップにつながっていくと考えています。そして学生と同窓生とのパイプが太くなることにより、学生が同窓会を自分たちの



バックに広がる頼もしい存在として認識し、自分たちが同窓生となった時には、今度は自分たちも学生を支えたいと考えるようになるのではないのでしょうか。また、今までわざわざ会費を払って同窓会に参加する意味はないと考えていた同窓生の中にも、このような学生支援活動が行われるのであれば、会費を払い、活動を応援、物心両面で協力しようと考えの方々が少なくないのではないかと思います。そうした同窓生が増えてくることを期待しています。そのようなよい循環ができれば、大学の発展、そして同窓会の発展にもつながっていくと考えられます。

そこで、今号では学生支援活動の状況、本年の同窓委員会での「学生支援活動」をテーマにした討議報告等を掲載することとしました。まずは皆様に現況をよく知っていただき、今後の活動へのご理解、ご協力を是非いただきたくお願い申し上げる次第です。

金銭的 援助	＜教育研究支援基金より 教育研究支援基金運用G＞	
	学会参加費補助	39名(192,905円) 平成22年度 55名(316,000円)
	成績優秀者表彰の副賞(図書カード)	18名(36,000円) 平成23年度より
	化学コース 2年生歓迎会賛助	5/31 教員紹介・懇親会(80,000円) 平成23年度より 平成24年度 化学EP 6/5 実施
	交換留学生旅費補助	平成23年度はなし(5万円/名まで) 平成22年度 77,000円
	平成23年度 計308,905円、次期繰越 6,634,863円	
情報 OBとの 交流	OBと語る会	7/26 化学コース 学部3年生対象 OB 2名の講演会・懇親会 10/20 先端物質化学 修士1年生対象 OB 1名の講演会・懇親会 12/2 先端物質化学 大学院生対象 OB 1名の講演会・懇親会
	OBを訪ねての企業見学・懇談	＜会誌・名簿G＞ 7/20 資生堂鎌倉工場 4年生5名参加 平成22年度 花王ビューティケア研究センター 4年生4名
	就職相談ボランティア	ボランティア42名 メール相談開始
就職 支援	キャリアサポートルームへ就職相談員派遣	＜企画G＞ 相談員 2名、面談者 5名
	就職準備講座	←
その他	OBの著書の寄贈書棚設置	約40冊 閲覧・貸し出し<庶務・会計G>

平成23年度の学生支援活動

## 学生支援活動の方向性について

教育研究支援基金運用G 榊原 和久(昭和50年応化卒)

平井国大化学会会長のリーダーシップの下、これまでの諸先輩の皆様が積み立てて残して下さった貴重な基金を使い、国大化学会の将来を担う現役学生への役に立つ、効果ある支援活動を、当面の間定常的に続けて行けるよう、国大化学会の役員の皆様と大学の教職員で協議しながら堅実にを行っています。

まずは、具体的にどのような事を学生さん達に支援をしているかについてお話をすると、年間の支援金額は、約30万～40万円程度で、支援活動の具体的な項目として、①学会参加補助(学生1人当たりの補助額の上限5,000円)、②化学コースに在籍している学生さんとの懇親会への補助(2年生と3年生に対してそれぞれ年1回実施し、1回当たりの補助金は約80,000円)、③成績優秀者への図書カードのプレゼント(1人当たり2,000円のカードを進呈し、だいたい年間で10数名の学生がその恩恵に浴

することになります)があります。①学会参加補助は、平成20年からスタートしたものですから、学生の間にもその存在がきちんと認知されていて、同窓会としての支援活動が現役学生に“現実に役立っている！”と実感できるものとなっていると思われます。③の成績優秀者への図書カードのプレゼントは、平成23年度から始まったものですが、6月5日(火)の化学EP(理工学部で採用された学生の教育集団単位で、工学部時代のコースに相当します)に進学して来た2年生を教職員と同窓会が歓迎をする懇親会の席上で、平井同窓会会長から該当する学生さんへの授与があり、学生の間にはそれなりにしっかりとした印象が残ったのではないかと思います。

上記のような教育研究支援基金活動が、定常的に長く続き、現役学生を始めとした若い世代の同窓会

員が、「同窓会は有り難い存在だな！」という印象を持ってくれるようになれば、社会人になってからも同窓会を見る目が、今よりは前向きな、積極的なものとなって来ると思います。現役の学生さん達と毎日を研究室で過ごしていると、昨今の厳しい経済状況の為、学生さんたちも相当に節約をした切り詰めた学生生活をしているなど感じます。学生支援に対する考え方は、皆さん様々であると思いますが、国大化学会の教育研究支援基金の財政健全化に留意し、個々の支援金額は少なくなるかもしれませんが、現役学生さんへの地道な幅広い支援活動の継続が大切であると思います。

現役の学部学生さんへの支援の他に、(A)博士課程に進学する or 進学している学生への支援、(B)アジア地域から日本に留学をして勉学・研究活動をしている留学生への支援 も考えなければいけないことであると思います。しかしながら（これは私の個人的な考えで、意見を異にされる方もあるかと思えます）、この支援に対する経済的な支援額は、一同窓会組織で恒常的に支えることができるようなものではなく、大学や国が重要な文教政策として真剣に考えなければいけないものであると思います。21

世紀になり、世界的な競争に打ち勝たないと、ビジネスが成り立たない時代になって来ました。これから、日本がこれまでのように豊かで快適な生活を送ることができるようにするためには、若い世代にしっかりとした教育をし、世界的に活躍できるような人材を作り出せる仕組み構築に務める必要があると思います。これまで同窓会を支えてきて下さったシニア世代の会員の方が、その経験を若い人に伝達できるような場を、大学の中で持てるようになれば良いがなあと最近考えています。大学の中に、同窓会の会員の方が気軽に集まれる部屋があり、そこには社会経験が豊富なOBの方が居て、就職や勉強の事で、現役学生と接し、話をする機会が増えれば、学生さん達の社会を見つめる目がより真剣で現実味を帯びたものとなり、日々の勉学・研究活動に対する姿勢がよりしっかりとしたものになると思います。金銭的な支援だけでなく、社会経験や自分の持っている知識を伝えるという“ソフト的”な支援を、同窓会の皆様から得られ、それを上手く現役学生さんに伝えられる仕組みを学内で作るよう努力したいと思います。皆様方からの、変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

## 第三回同窓委員会グループ討議報告

企画 G 小野塚 新（昭和54年電化卒）

2012年6月16日(土)13:30-15:40

概要：

今回は、「学生支援」を国大化学会の重点課題と位置付けて討議テーマとした。

合計57名（うち現役学生17名（B3-M2））が参加し、7班に分かれて討議を行った。

「学生支援」が、学生とOBをつなぎ、発展の循環にはいる、というコンセプトは学生とOB双方から理解をいただいた。

「学生支援」に対する学生のニーズとそれに対応するための国大化学会の課題を討議した。

学生からは、情報についてOBと学生の双方向での情報交流、資金について広い範囲を対象に支援の厚みを増して欲しいとの意見が出た。

国大化学会は、情報発信の頻度を上げ、「学生支援」充実をアピールして、会費や寄付収入を増加させるとともに、学生の意見を把握しながらニーズに応える必要があるとの意見が出た。

### 1. 同窓委員会でのグループ討議テーマ「学生支援」について

昨年6月の第二回同窓委員会において議論された内容を整理すると、国大化学会（同窓会）の意義、目的を問う意見（懇親なら同期会や研究室の会で十分ではないか）が多く見られた。

そこで、「学生支援」を国大化学会の重点課題として明確化し、卒業生の活躍によって、横浜国大のバリューアップにつながれば、さらに「学生支援」の重要性を認識でき、これが国大化学会の活動も活性化させる好循環を作り上げられるのではないかと考えた。

この循環の内容を図1に示す。なお本図は、当日の討論の導入にも用いた。

### 2. 国大化学会の「学生支援」、討議まとめ（ニーズと課題）

図2に討議内容をニーズと課題に分けて整理して示した。

## 学生支援

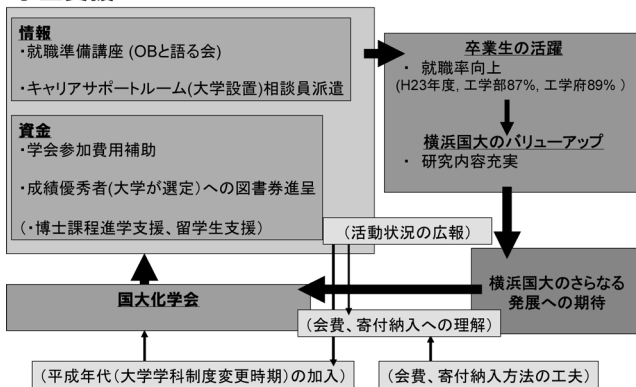


図1 なぜ同窓会（国大化学会）が必要なのか  
「学生支援」の位置付け

### 2.1 学生のニーズ

#### (1) 情報（OBと学生の双方向の情報交流を）

- ・就職準備講座（OBと語る会）への要望
  - ・M1, B3 向けに加え、博士課程にも支援をして欲しい
  - ・アカデミックな進路への相談を加えて欲しい
  - ・社会のニーズを聴きたい
- ・企業訪問を積極実施したい
  - ・B2, B3 の時期が重要
  - ・学生役員を中心に国大化学会を通じた運営、実施（OBとの交流が増す）
  - ・国大化学会の企業訪問企画については、詳細内容の事前周知が重要
- ・OBとの接点を作りたい
  - ・ニーズ吸い上げのためのアンケート実施
  - ・OB連絡先は早めに欲しい（就職相談ボランティア等）
  - ・OBとのコミュニケーションの場が欲しい（環境支援）
- ・広報頻度増加（メルマガ活用、会誌の電子化）を望む

#### (2) 資金（もっと広く、もっと厚く）

- ・学会参加費用補助、留学生支援（実施中）、博士課程支援（検討中）
- ・成績優秀者（大学選定）への副賞（図書券）贈呈（贈呈時に「国大化学会から」をしっかりと伝えて欲しい。）
- ・教科書代補助、奨学金など支援拡充を望む

## 学生のニーズ

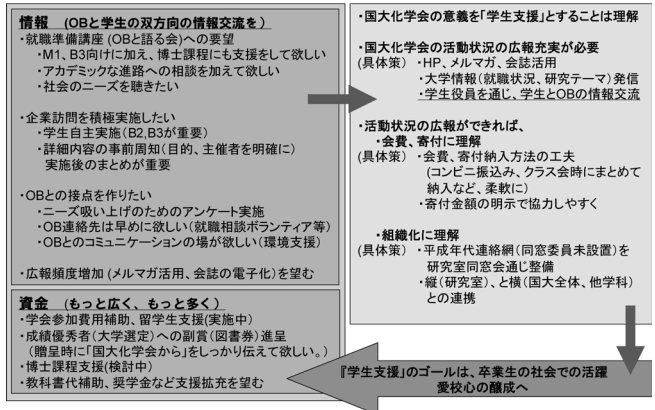


図2 国大化学会の「学生支援」  
討論まとめ（ニーズと課題）

### 2.2 国大化学会の課題

- (1) 国大化学会の意義を「学生支援」とすることは理解
- (2) 国大化学会の活動状況の広報充実が必要  
(具体策) ・HP, メルマガ, 会誌活用  
・大学情報(就職状況, 研究テーマ)発信  
・学生役員を通じ, 学生とOBの情報交流
- (3) 活動状況の広報ができれば,  
・会費, 寄付に理解  
(具体策) ・会費, 寄付納入方法の工夫  
(コンビニ振込み, クラス会時にまとめて納入など, 柔軟に)  
・寄付金額の明示で協力しやすく  
・組織化に理解  
(具体策) ・平成年代連絡網(同窓委員未設置)を研究室同窓会通じ整備  
・縦(研究室), と横(国大全体, 他学科)との連携
- (4) 「学生支援」のゴールは,  
・卒業生の社会での活躍  
・愛校心の醸成

### 3. 今後の課題

国大化学会への期待（ニーズ）と課題が具体的にあげられた。今後学生とOBの情報の双方向の情報交流を進めるとともに、短期的課題（活動内容の発信や会費等振込み方法など）と長期的課題（収入増を伴った支援の充実など）を整理し、実行に移す必要がある。

## 寄贈図書一覧 (あいうえお順)

同窓会員のみなさまより寄贈していただいた図書は現在 37 冊になりました。その一覧を掲載させていただきます。所蔵図書は現在化学棟 1 階の事務室で、自由に閲覧できるようにしております。(写真をご参照ください)

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| アストロバイオロジー 宇宙が語る〈生命の起源〉 | 小林憲正                 |
| SPP まなび遊々               | 一灯舎・松宮出版 松宮 昇        |
| 教えきし道                   | 高根敏臣                 |
| 介護二十年 命尽きるまで            | 高根敏臣                 |
| 科学も感動から—光触媒を例にして—       | 藤嶋 昭                 |
| 合衆国日本 多様化への道            | 松下薫一                 |
| 環境化学計測学                 | 堀 雅宏                 |
| 基礎移動現象論                 | 石井 勉                 |
| 逆説の原爆論                  | 松宮 昇                 |
| 化粧品の乳化処方と製造上のトラブル解決     | T. Joseph Lin・鷲谷廣道   |
| 高分子材料化学                 | 小川俊夫                 |
| サグラダファミリア—夜明け前—         | 泉水信昭                 |
| されど釣りなり—私の釣り紀行          | 杉田守弘                 |
| されど釣りなり—私の釣り紀行 続        | 杉田守弘                 |
| 自動車用大容量二次電池の開発          | 監修 佐藤 登・境 哲男         |
| 新版 繊維加工技術               | 増田俊郎・塩澤和男            |
| 「成功への方程式」、解は「失敗しないこと」   | 松下薫一                 |
| 生徒たちに感動する心を育てよう         | 藤嶋 昭                 |
| 世界発掘探訪記                 | 佐藤 登                 |
| セラミックスの事典               | 監修 山村 博・米屋勝利         |
| 染色仕上加工技術                | 塩澤和男                 |
| 先進セラミックスの作り方と使い方        | 日本学術振興会              |
| 太陽と光しょくばいものがたり          | 高温セラミック材料第 124 委員会 編 |
| 太陽光発電工学                 | 藤嶋 昭・かこさとし           |
| —太陽電池の基礎からシステム評価まで      | 山田興一・小宮山宏            |
| 地球環境 危機からの脱出            | レスター・ブラウンほか          |
| チタンのおはなし                | 鈴木敏之・森口康夫            |
| 窒素ケイ素系セラミック新材料 最近の展開    | 日本学術振興会              |
| データのとり方とまとめ方            | 先進セラミック第 124 委員会 編   |
| 天寿を全うするための科学技術          | 宗森 信・佐藤寿邦            |
| —光触媒を例にして—              | 藤嶋 昭                 |
| 電力危機                    | 山田興一・田中加奈子           |
| どうしたらいいの？環境ホルモン         | 浦野紘平 編著              |
| なぜ目標管理がうまくいかないのか        | 梅津敏裕                 |
| 二宮尊徳のころ                 | 梅津敏裕                 |
| 光機能化学—光触媒を中心に—          | 藤嶋 昭・瀬川浩司            |
| ブレイクする科学技術者はココが違う       | 山崎征男                 |

学び舎に夢を  
みんなの地球 環境問題がよくわかる本

高根敏臣  
浦野紘平

